

戦後のこと

BN 186 田中與一郎

戦後の混乱の時代、まだ日本国が連合軍の占領下の時代です。当時連合軍の総司令官マッカサー元帥の権力は絶大で、教育制度から日常生活に至るまで日本国はその指令下にありました。その総司令部は宮城前的第一生命ビルにあり、敗戦国の日本に君臨していました。GHQに出て頭するよう通知がきました。驚きました。ドイツ・ヒットラー・ユーゲントとの関連の誤解か、綱領の問題か、部の解散命令か、何事かと思案しながら出口林次郎先生、大橋莞爾さん（当時委員長、現在の主将）と私の3名で出掛けました。

正面玄関には銃剣を持つた衛兵が立ち、ものものしいものでした。中に入ると意外に立派な部屋に案内され、GHQ民間情報局青少

年部長ドナルドMタイパーという方が出て

戦後のことはBN 186 田中與一郎

戦後の混乱の時代、まだ日本国が連合軍の占領下の時代です。当時連合軍の総司令官マッカサー元帥の権力は絶大で、教育制度から日常生活に至るまで日本国はその指令下にありました。その総司令部は宮城前的第一生命ビルにあり、敗戦国の日本に君臨していました。GHQに出て頭するよう通知がきました。驚

## 戦後のこと

BN 186 田中與一郎



## 第45号

明治大学 ワンダーフォーゲル部 会報  
なため

「実はアメリカン・ユースホステル協会の別名」という団体が訪日したいと希望している。その団体は大学生が主体で戦後の日本を見学し、日本の大學生と交流したい。明治大学ワンダーフォーゲル部に協力を願いしたい」という

申し入れでした。

安心しました。また、その部長さんが

出口先生がアメリカに留学した大学と同窓（コネル大学）であることなど和氣あいあいの話になりました。大学に帰り春日井先生に報告し、先生は良い話なので明治だけでなく、戦後再結成した学連（明治、慶應、青山、立教、中央）で迎えたらどうかとの指導もあり、早速、学連委員の皆さんとタイパー氏と打ち合わせし、スミス団長以下32名を羽田空港に迎え、再三のミーティング、日光、鎌倉と戦後早い時代の日米学生の交流でした。

明治大学でのお別れの会の席で団長のスミス氏は感謝を込めて、翌年開催されるコペンハーゲン大会への招待と学生2名のアメリカ留学の招待を発表いたしました。その後私は就職が内定し縁が切れましたが、この縁でその後長く来訪したアメリカの方々と交流した方、また来訪した団長のモンロウ・スミス氏（アメリカユースホステル協会創設者）を訪ね、日本ユースホステル協会を設立した方々、

## 北横岳＆車山の雪中 ワンデルング

昭和五十年度卒情断会 BN 776 高島 昇

ザックを押し込み、正月の飲み会以来の再会の挨拶を済ませ、中央高速諏訪を目指し出発した。今回はこの四人である。心配していた空模様はいつの間にか雪に変わり、タイヤチエック渋滞はあつたが、車内は和やかに時間が過ぎた。車は諏訪から雪景色の茅野を通り、その奥に広がる別荘地を抜けピラタス横岳ロープウェイ麓駅に到着した。7～8分で約500mを稼ぐ百人乗ロープウェイにスキーパーに交じり、2220mの山頂駅まで一気に登った。小田野以外は1年振りの軽アイゼン装着であるが、今回Mが居ないこともあり、スムーズな装着で全員準備万端である。何故か身体の硬いMがなつかしかった。十一時半、ストックを調整してゆっくりと出発。雪は降るが風弱く、思つたより暖かく緩やか。坪庭の登りで厚着の小川は汗をかいていた。

尚、昭和23年に復活した全日本学生ワンダーフォーゲル連盟の初代委員長は大橋莞爾さんで2代が私で3代が青学の前川さんでした。



原田もおニューのジャケットが頗る防寒良く、これまたシャツを脱ぐほどであつたが、小田野と高島は調節が出来ていた。手軽なコースと言ふこともあり、様々な格好の登山者とすれ違うが、基本的な装備を忘れているグループもあつたようだ。暫く南に縞枯山を見て、北にコースを変え重い雪で枝を下げるシラビソの樹林帯を進む。出発から一時間を要し北横岳ヒュッテに到着する。早速、小屋の前で空腹を満たし、三十分で三角点のある横岳南峰を通過し、すぐに同北峰山頂2480mに到着する。あいにくの雪で景色はなく、休憩の後、登頂の証拠写真を撮り山頂駅まで一気

に下山した。本日の予定はこれで終了。今日の宿泊は、小田野の友人が営む、ベンジョン「コロモデ」である。とてもアットホームで料理が美味しかつた。翌日は朝食を済ませ、オーナー夫妻の手厚い見送りをいただき、車山肩まで車を進める。既に先陣が居り、僅かなスペースに車を止め、スノーシューを付けて車山山頂を目指す。山を大きく巻きながらゆっくりと登り、頂上手前で絶景に小休止。風はややあるが快晴であり、昨日登つた横岳、左隣にどつしりした蓼科山、右に八ヶ岳連山、山間から富士山も覗き満足する景色である。そこから十五分程度で気象レーダーのある山頂(1925m)に到着した。反対斜面からリフトで登つてきたスキーヤーが景色に見とれていた。我々は風を避け、塔の陰でお湯を沸かし各人が軽食と一服を取つた。出発直前、小川の頭の上に塔に付いた雪が落ちたが「大丈夫か?」の声もなく各自、黙々と準備をしている、素晴らしい仲間達である。下山の途中、コースを外れ膝上辺りまでの新雪をラッセルしながら、走り下るが如く、時に奇声をあげて楽しく山を下りた。今回が三回目のスノーシューウェイであったが、下りに関しても一番楽しかつたかもしれない。「次の予定はどうする?」と車中の話し合いをしながら早めの帰路となる。

## 怪我の功名

BN 1017 山口 直樹

昨年9月、鹿島槍ヶ岳から下山後、大町温泉「薬師の湯」に歩いて向かう途中、私は、藪に隠れた深いU字溝に左足をとられ、右ひざ靭帯を損傷し、今年の春まで約半年間、自宅近くの整骨院で治療に専念しました。この超まぬけな事件は、以前、薰風に掲載していただき、「鹿島槍珍道中」で紹介させていました。

そこで今回は、通院で得られた二つの幸運な、素晴らしい出来事を紹介させていただきます。

一つは、先生方からいただいたアドバイスにより、筋肉ケアの重要性を認識し、実施した結果、体質が改善され、生活が快適になつた事です。整骨院での治療内容は、歩行その他の運動時、右ひざ靭帯損傷部分を庇うことにより過度に負担のかかる右足太もも、脛脛(ふくらはぎ)と足首、左足全体、腰部等の筋肉の疲れをとりながら損傷分部の回復を促進させるもので、手段はマッサージ、電気治療等です。その際、先生方(数名の先生の中から毎回、交代で1人が治療)から筋肉、靭帯に関する様々なお話を伺つたことで、関節や筋肉のストレッチ方法についてのより正確で深い知識が得られ、実践により確証を得たことは、大きな収穫でした。私は以前から起床時に足腰のストレッチ・腹筋背筋・腕立て



整骨院の先生方と

伏せ等の筋トレで心身を目覚めさせ、休日はランニングや球技、ごく稀に山歩きでストレスを解消し、気分転換をはかつてきましたが、今回得た知識を活かし取り入れたところ、起床時の運動では、影響が内臓のまわりの筋肉にまで及んだためか毎朝、便通が良くなりました。また、ランニングや球技の前に関節を伸ばしたり、運動後に負担のかかった筋肉のストレッチを丁寧に正確に実施することで2、3日後に入る筋肉痛の恐怖から開放されました。また以前と比較して関節が柔らかくなり、50歳を目前にして生まれて初めて、脚を伸ば

して座り、両腕をまっすぐ前かがみに伸ばしたとき、手の指先が足ウラの土踏まず位まで届くようになりました。

二つめは、他の患者さんとの出会いによって、以前、夢中になつたことのあるテニスを再び楽しむ機会を得られたことです。きっかけはゴルフから始まります。整骨院の院長が日本オリンピック委員会の強化スタッフを務めているほどの運動好きな先生であるため、年に数回、院主催で整骨院スタッフ、患者、元患者等が多数集まり、賑やかに楽しくゴルフコンペを開催しており、私も参加させていただきました。たまたま同じ組の女性から、平日の午後、私の自宅隣の運動公園でテニスをする同好会に所属している話を伺い、平日の休みに参加できるため、私も入会させていただきました。約10年ぶりにラケットを握つたため初めはうまくいきませんでしたが、序々に慣れ、今ではすっかり楽しませていただき、冷や汗が気持ちのよい汗に変わりました。同好会にはゴルフ愛好者もいるため、ゴルフも楽しめそうです。

「怪我の功名」とはよく言つたものですが、お蔭様で、今のところ二つの幸運をしみじみと味わせていただいております。深く感謝するとともに、「人間万事塞翁が馬」であるため、再び、大怪我をしないよう体をいたわりながら、素晴らしい出会いを大切にしていきたいと思う次第です。

### 第3回大丈田代(クビレ田代) ワンデルン

BN  
683 横手  
一男

恒例となつた(同期会獅子の会では)クビレ田代へのワンデルンは8月24日に行われた。地図上では大丈田代がMWVではクビレ田代と呼んでいる。誰が名付けたのか私は分からぬ。参加者はリーダー西島兄(町田市在住)、森田兄(愛知県あま市在住)、東日本震災に被災され、今なお原発の脅威にさらされている鈴木義忠兄(福島県いわき市在住)、島田市在住)、横手(東京在住)の5人である。東武浅草駅8時集合。4人で快速8時10分発新藤原駅行きに乗る。新藤原駅乗換えで会津高原駅に11時21分着。駅員に天気の様子を聞くと昨日も晴れですと、山の天気は分かりませんが、会津高原駅で、いわきから車で来た鈴木義兄と合流して桧枝岐へと向かう。途中の内川、大桃、高畠、伊南村集落では田畠や家が土砂崩れで崩壊している。沢筋では大木や大石が上流から流れできている。一時、桧枝岐村が孤立した新潟・福島の集中豪雨の被害がすごい。これから行く桧枝岐はどうか心配である。七入は被害が無い。地盤が違うのか?七入橋の手前から実川林道へ入る。林道も被害はない。ヤビツ沢橋の袂に車を止める。

12時48分着。天気予報は曇りですが晴れで暑

さが気になる。ここで共同装備を振り分ける。テント、食料、水、嗜好品、火器等を確認する。いざ出発！初参加の金原兄は緊張氣味である。新品の靴で一番早くザックを担いで準備している。先頭は熱きリーダー西島兄が行く。沢の近くの尾根を登る。それが急登で木や笹を掴みながら上る。ぐんぐんと高度を稼ぐ。13時30分（1240m）休憩。木々の緑は新緑を思わせる色艶である。明瞭な尾根に乗った辺りで休憩、13時54分（1300m）。さらにつ進むと踏み跡のある細尾根になり歩きやすくなる。下草は笹で所々に大木がある。両側が切り立った場所で左ヤビツ沢右実川林道、ブナ林の涼風を感じて休憩する。14時44分（1440m）。尾根がやや広くなると、二重尾根になり灌木の林の中を歩く。尾根が合つた場所で休憩する。凍つた水で喉を潤す。15時05分（1480m）。ここからは鞍部までスズ竹の密生したヤブ漕ぎとなる。比較的歩きやすい獸道を捜しながら尾根をはずさないように歩く。最後の登りである。緩やかになると鞍部だ。平らになりスズ竹のある獸道を辿りながら進む。所々、不明瞭になるが方向を定めて進む。昨年の沢を渡渉した場所に出る。16時25分。右岸に渡り沢沿いに進む。スズ竹のところだが難なく進み、上田代に出た。清らかな沢の水を越えると、目の前のクビレ中田代の緑が輝きを増している。16時38分着（1630m）。泥炭化した高層湿原の中を歩くと“クシャクシャ”と音がする。学生時代

はわずかな時間しか滞在しなかつたが、三回目ワンデルンで同期会の仲間といつもの場所サイト地を目指していく。樹林帯の中、平らな地形にテントを設営する。まず、乾いた服装に着替えて行動開始する。焚き火の薪拾い、食事の用意、火付けの要領は、火種は日本製のガムテープ、その上に木つ端に木、さらに細い木を載せて一方方向に木を載せていく。空気の方向に気を配る。ガムテープは少しずつ燃えていくので、その間に木つ端に火が付きやがて細木に火が付けば大丈夫。今度は太い木を回りにおいておく。火が盛んになり燃え出したら上から押さえるようにして木を加えていく。焚き火の完成です。食事の担当は鈴木義兄だ。素材はすぐに調理できるよう野菜等刻んである。もつ鍋の献立にうどん。十分に冷えている泡で乾杯する。のどを潤すのに最高である。食事も美味しく食べる。和みの時間だ。サイト地においての話で今回、農業に従事している鈴木義兄は腰を痛めている、どうなるか不安だと話していたが十分に大丈夫だ。熱きリーダー西島兄は気合いが入っていた。百名山を目指して山を登っている森田兄は8月に西島兄と立山・剣岳を登り、やる気満々だ。初参加の金原兄は久しぶりの山で森田兄から装備の指導をしてもらいい、来る前に山へ出かけて足慣らしをしてきた。今回は不安の中で歩き始めたらしい。が、なかなかなものでした。横手は7、8月山歩きをしてなくて不安だつたが、前日の8月23

日に高尾山（599m）に登り足慣らしをすると、いつもの時間で登れて安心をした気持ちで参加した。クビレ田代へはヤブ漕ぎをしなければ行きつけない場所である。簡単に目ワンドルンで同期会の仲間といつもの場所サイト地を目指していく。樹林帯の中、平らな地形にテントを設営する。まず、乾いた服装に着替えて行動開始する。焚き火の薪拾い、食事の用意、火付けの要領は、火種は日本製のガムテープ、その上に木つ端に木、さらに細い木を載せて一方方向に木を載せていく。空気の方向に気を配る。ガムテープは少しずつ燃えていくので、その間に木つ端に火が付きやがて細木に火が付けば大丈夫。今度は太い木を回りにおいておく。火が盛んになり燃え出したら上から押さえるようにして木を加えていく。焚き火の完成です。食事の担当は鈴木義兄だ。素材はすぐに調理できるよう野菜等刻んである。もつ鍋の献立にうどん。十分に冷えている泡で乾杯する。のどを潤すのに最高である。食事も美味しく食べる。和みの時間だ。サイト地においての話で今回、農業に従事している鈴木義兄は腰を痛めている、どうなるか不安だと話していたが十分に大丈夫だ。熱きリーダー西島兄は気合いが入っていた。百名山を目指して山を登っている森田兄は8月に西島兄と立山・剣岳を登り、やる気満々だ。初参加の金原兄は久しぶりの山で森田兄から装備の指導をしてもらいい、来る前に山へ出かけて足慣らしをしてきた。今回は不安の中で歩き始めたらしい。が、なかなかなものでした。横手は7、8月山歩きをしてなくて不安だつたが、前日の8月23

日に高尾山（599m）に登り足慣らしをすると、いつもの時間で登れて安心をした気持ちで参加した。クビレ田代へはヤブ漕ぎをしなければ行きつけない場所である。簡単に目ワンドルンで同期会の仲間といつもの場所サイト地を目指していく。樹林帯の中、平らな地形にテントを設営する。まず、乾いた服装に着替えて行動開始する。焚き火の薪拾い、食事の用意、火付けの要領は、火種は日本製のガムテープ、その上に木つ端に木、さらに細い木を載せて一方方向に木を載せていく。空気の方向に気を配る。ガムテープは少しずつ燃えていくので、その間に木つ端に火が付きやがて細木に火が付けば大丈夫。今度は太い木を回りにおいておく。火が盛んになり燃え出したら上から押さえるようにして木を加えていく。焚き火の完成です。食事の担当は鈴木義兄だ。素材はすぐに調理できるよう野菜等刻んである。もつ鍋の献立にうどん。十分に冷えている泡で乾杯する。のどを潤すのに最高である。食事も美味しく食べる。和みの時間だ。サイト地においての話で今回、農業に従事している鈴木義兄は腰を痛めている、どうなるか不安だと話していたが十分に大丈夫だ。熱きリーダー西島兄は気合いが入っていた。百名山を目指して山を登っている森田兄は8月に西島兄と立山・剣岳を登り、やる気満々だ。初参加の金原兄は久しぶりの山で森田兄から装備の指導をしてもらいい、来る前に山へ出かけて足慣らしをしてきた。今回は不安の中で歩き始めたらしい。が、なかなかなものでした。横手は7、8月山歩きをしてなくて不安だつたが、前日の8月23

も来たなど囁いているようだ。沢の水も清らかだ。8時30分に下田代から森田兄と金原兄が帰ってきた。サイト地を整理しながら下準備となる。9時14分出発。先頭を歩くは横手である。下りは読図に気を使う。同じコースを歩くように下る。ヤブ漕ぎの部分は歩きやすい所を探しながら進む。うまく沢の渡渉地点にてた。そこからもヤブ漕ぎで歩きやすい場所を見つけて進む。獸道に慣れてきたら金原兄が先頭を歩いている。余裕が出てきたようだ。昨日の目印した場所に出た。少し歩くと鞍部に10時14分着。(1550m) ここからヤブの薄い場所を歩くと尾根から離れる。右に尾根を見ながら下る。獸道は沢筋に下っているので右にトラバースしながら下る。急坂を下ると二重尾根の場所に出た。やがてヤセ尾根になる。尾根が分岐している場所に出た。横手は左の尾根を下るが、尾根が広く見通しがいいが、昨日登った尾根でないことに気が付いて戻る。やはり下りは難しい。登るときの様子と下るときの様子が違う、登るのはひたすら高い所を目指して行く、下りは目線が下に下にと下がるので尾根の見分け方が重要だ。後は方向も確かめる。今度は鈴木義が先頭を歩く。もう少し下った場所から左の尾根を下る。急坂だ。ぐんぐん下る。樹林帯の中に石楠花がでてきた。ヤセ尾根を下る。やがて実川の水の流れが聞こえるところに出でて、林道が見えた。そこで、ダアダアーと音がしてザックが上から沢筋に落ちてきた。木

の枝に当たつて止まる。人で無くつて良かつた。金原兄のザックだつた。そこでその場所からザックへの場所に木をつかまりながら下る。目の前の実川林道に出た。250m先がヤビツ沢橋である。11時38分着。ここから桧枝岐の温泉に行く。温泉のあとは腹ごしらえに裁ちそば「開山」の店で食事をする。今回の山行の検討会となる。初参加の金原兄は無事に終わったので安心していた。天気は夜に雨になつたが晴れ曇りでよかつた。コースはやはり下りが難しい。今回、今日25日は同期会が休暇村那須で行われるので、ここから会津田島町を経由していくことになる。針生山荘を見て、下郷町から甲子トンネルを通つて那須に向かう。来年の企画がリーダー西島兄から話がでました。まだまだ続く大丈田代(クビレ田代)への路……。

## 奥鬼怒山荘OBワーク報告

BN 705 杉山 裕

来年2013年奥鬼怒山荘(手白小屋)は五〇周年を迎えます。建設時1年部員として夏合宿を返上したボッカ合宿でご苦労なされた大洞OB(BN59)を実行委員長に迎え、10月に盛大な式典を行う予定です。

恒例のOBワーク、今年は6月1~3日の3日間みつちりと働いてきました。前日大洞・大賀(61)・松井(97)3OBが入荘し、1日は諫訪本監督始め本隊OB7名現役4名



がこれから肉体労働に具えた大量の食料等を手白沢橋から一挙に荷揚げしました。小屋に近づくと左手に大量の大枝が横たわり変だなと思いながら小屋着。発電機室脇の胸回り1m弱の米つがの大木が地上7・8mで真つ二つ。小屋の北側に向かつて倒れ、その巻き添えか数本の大木も根こそぎに倒されていました。小屋側に倒れていたら……。今回伐木を想定していた危険木ではなかつたのですが

大風によるものが、自然の力は恐ろしいものです。一服後早速予定の伐木は取りやめ、倒木処理にかかりました。チエーンソーで切り出し、運搬・薪割と現役と若手OBが大活躍です。他の一隊は水源に向かい、取水部の清掃とパイプ第一接続部の付け替え補強を行いました。16時からは気象通報で天気図をとり、尾崎コーチ(1174)の指導で気象講習。夜は夕立のためキャンプファイヤーは取止め、ストーブを囲んでのおでん・牛筋煮込みがメニューの晩餐、その後遅くまで歌声が響きました。

2日の作業は3隊に別れ、1隊はチエーンソー・斧での倒木処理新作り、安田CL以下現役は薪割の腕はずいぶん上がつたようで、特に女子部員のたくましさが際立っています。薪小屋を一杯にしても処理できたのは倒れた木のホンの一部です。1隊は明大新道の補修、盛りの石楠花をめでながら手白沢橋からの急登やトラバース部で土止めの杭打ち。急登には今「明大テラス」「OBテラス」の休み場を設けてあります。OBのたためにその下に「シニアテラス」を作ろうと話しています。もう1隊は草刈器を使つて明大新道・五八新道・小屋周囲の草刈、新渡沢では山椒魚を見つけて女子部員は大喜び。渡渉点からの帰りはやはり小屋への道に入れず新助沢を遡行、現役はまだ迷いやといふです。昼、植木OB(846)・鈴木2年部員が入荘。昼食は水場のフネを使って豪快に流しソーメン風、こびり付いたモルタルを見なが

らオツなものでした。夕方夕立の中を椎橋会長(505)以下OBOG6名一般3名の空色山の会が到着。夜、雨で今日もファイヤー中止。夕食はシチュー・中華鍋等、夜食はポークジンジャーと今日も豪華版、21名のにぎやかな宴会となりました。夜の歌唱指導はたっぷり時間をとり、今後機会があればOB各位に現役の少しあはマシになつた「なため」や「安曇節」をお聞かせできると思います。

3日、夜明けとともに横尾OB(728)が雪の根名草山を越え、日光白根山を目指し出発。他はゆっくりと朝食を摂り、薪の片付け・小屋内外の清掃をし、総勢25名の充実したワークを終えました。帰途残り全員加仁湯で入浴しました。

今回も奥倉前監督(558)からOBワークに対しご寄付を頂きました。末筆ながら御礼申しあげます。

## 山久会・蓮華温泉周辺W

BN 532 鈴木 正彦

平成24年6月1日11時42分、山久会のメンバー7名と大内先輩ご夫妻の計9名は大糸線

南小谷駅前に降り立つた。メンバーの一人は岡山の上野君、もう一人は伊万里の曾我君と遠方から二人が駆けつけてくれた。

大内先輩ご夫妻は結婚50周年記念(金婚式)で、新婚旅行に八方尾根の明大山岳部の小屋に泊まつたことがあるとのこと。

9人乗りのジャンボタクシーに乗り、一路蓮華温泉へ。白池を過ぎ一般車の終点「ヒワ平」に13時15分到着。迎えに来てくれていた蓮華温泉ロッジの四駆2台に分乗し、標高1475mの蓮華温泉到着13時40分。

休む間もなく兵馬の平へ散策に出かける。道の両側には飽きるほどのフキノトウが顔を出し、残雪残る沢沿いで水芭蕉の群落が我々を出迎えてくれる。途中には野鳥の森やブナの森があり、静寂の中の野鳥のさえずりと芽吹き出した新緑の葉が我々の心を癒して



くれる。それにしても何と残雪の多いこと。流石、白馬岳の北麓だけのことはある。途中まで降りていったが、ガスが出てきて見通しも悪くなつたので兵馬の平を諦めてロツジに戻ることにする。

今度は露天風呂巡りだ。蓮華温泉にはロツジの南側斜面に4箇所の野趣溢れる露天風呂がある。最初は黄金湯だ。六畳位の木枠に囲まれた木陰の静かな湯だ。10分ほど斜面を登つていくと今度は仙気の湯。四畳半位の露天風呂で意外と狭い。仙気の湯の隣には源泉があり、勢いよく噴煙が上がつていて。さら

に5分ほど登ると薬師の湯だ。ここは蓮華温泉の中で一番高い場所にあり、大小の岩に囲まれた浴槽からは朝日岳方面を眺められ、正

に雲上の楽園だ。紅一点のチコちゃんは水着持参で、我々と一緒に混浴を楽しんだ。勿論、我々はスッポンポン。最後は三国一の湯だが、これは帰途にあり、チコちゃんだけが入り、我々は撮影班に回つた。

250名収容できる蓮華温泉ロツジに今宵は我々9名だけがお客様だ。夕食は大内夫妻の金婚式を祝い、シャンパンで乾杯。楽しい食事となつた。

## 2日目

昨日、露天風呂に行けなかつた大内夫妻は今日は露天風呂巡り。我々は黄金湯への道と別れ、白馬岳への道を進む。残雪混じりの道をしばらく行くと、雪渓が途切れ、落ち込んだ沢に出る。飛び石伝いに渡ると登山道の両

側はニリンソウの群落だ。何とも美しい。

夏道は、所々雪に覆われ、ステップを切りながら進む。まもなく蓮華の森1600mに着く。ここで一同、滑り止めをつける。段々雪の量が多くなり、急な雪面を用心深く登つて行く。梅の森を過ぎた頃、大腿骨にチタンが入つていて上野君が、これ以上は無理と引き返すこととなつた。奥倉・三嶋両君がサポートのため同行。曾我、佐藤昭、岸、鈴木の4名で白馬大池を目指す。夏道は歩きやすいが、雪渓が現れるとその先の夏道を探すのがひと苦労だ。

後方を振り返ると蓮華温泉ロツジが案外近くに見える。しばらく進むと曾我君が「限界だ！ここから戻る」とのこと。3人で更に進む。雪庇状の下や樹林帯の中を通り抜けたりしながら、ようやく天狗の庭2093mに到着。12時4分。無雪期なら1時間30分のところ、4時間15分かかつた。ここに雪はなく、この先の尾根上にも雪はなさそうだが、コースタイムではここから白馬大池まで1時間30分だ。白馬岳も遠望できる。昼食の後、引き返すことにする。

下りは見通しのよい緩い雪渓を選び、スムーズに降る。滑つたり転んだりしながら、ようやくロツジにたどり着くと、「遅いので心配していた。4時まで戻らなかつたら救援を頼もうと思っていたところだ」と嘯かれ。蓮華の湯に心ゆくまで浸かり、湯上がりには森伊藏や魔王、十四代で乾杯。

## 3日目

ロツジの四駆でヒワ平へ。ジャンボタク

シーに乗り換え、南小谷駅の程近くにある塩の道入口まで送つて貰う。いにしえの旅人を

が向かう。白馬村八方のレストランで、同期

の池田・井出両君と合流。総勢11名となつた。

昼食後、ゴンドラとりフトを乗り継いで八

方池山荘へ。雨模様となつてきた。皆、思い

思いに周辺を散策し、早めに下山する。ホテ

ルの温泉で汗を流し、賑やかな宴会となる。

## 4日目

井出君は仕事があるので、一足先に帰る。レンタカー2台で水芭蕉を見ようと鬼無里まで足を伸ばしたが、月曜日のためシャトルバスは運休。白髭神社やふるさとの館を訪れ、後立山連峰・戸隠連峰眺め、一路松本へ。

曾我君を見送り、駅中の居酒屋で一杯飲み、車中の人となつた。

## 一十六夜山

BN 569 愛甲 聰

快晴に近い空の下、道坂トンネルバス停の登り口に9時50分到着。昨年は雨天で中止となつたが、今回も日頃の行いが特別良いとは言えないメンバーだが、大賀リレーダーの熱意に天が御褒美をくれたのだろうか皐月晴れだ。ペースメーカー杉山を先頭に10分も歩くと今

倉山から御正体山への稜線に出る。新緑におわれた、ゆるい登りの尾根道は気持よい。カメラ担当濱田は先回りしたり、横に上がつたりして撮るのに大忙し。歩き始めの元気な表情があるうちに写しておいた方が良いと思つたのだろうが確かに良い判断だつた。鈴木娘や吉田老練氏の草木の説明を小耳に入れながらプラプラ歩くうちに今倉山東峰、今回最高峰1470mに到着。ここで1本。途中では御正体山の右側に白い富士山の右半分がくつきりと見えたが、この今倉山頂は木々に囲まれ、展望はきかない。だが、広く落ちつく所で、皆さんそれぞれに水や菓子をお腹に補充しはじめる。私は肺に補充。

サテ出発。歩く順序がいろいろ入れ替わる。豪脚小田野、対照的な中山氏。疲れないのか二コニコ鈴木氏。超ベテの椎橋氏は悠然とマイペース。いくつかの小さなアップダウンで視界が開ける赤岩に到着。霞空で富士を仰げないのは残念だが、歩いてきた東側以外はさえぎるものはなく、まわりの重なり合う山々が素晴らしい。12時には早いがここで昼食。狭い山頂に皆さん上手に陣取り、弁当を広げる。朝の車中で大賀が私にワインを用意したと言うので、ここで飲むのかと期待していたが、なかなか出てこない。ワインはと聞くと、二十六夜山でとか、宴会で等と言つて何故か飲ませたくない様子。こんなに景色の良い所で乾杯しない訳にはいかないので再び催促すると渋々といった感じで、ほんの少しだけ紙



カップに注いでくれた。リーダーとして色々気を使うんだよな。グレードはともかく、ようやく飲ませてもらつただけに美味しい。そして椎橋超ベテのザックから魔法のごとく色々出てくるなかのコーヒーもまた美味しいかつた。

今日の目的地、二十六夜山はまだ先である。ここ赤岩から下り気味の尾根道の1時間弱を9割方は快調に歩いたが1割不調。それでも全員大差なく二十六夜山に到着。

山名からみても信仰の山らしく賽銭箱まで

ある。（誰もお金を入れなかつた）二十六夜山といい、宴會場の芭蕉月待ち湯という詩的な名稱のコースを、全くイメージの異なる大賀殿が今回決めたという事で、私は、彼なりに繊細な神経も持ち合わせているのかなと考えていてワインの催促を忘れるところだつた。（ここでもほんの少しだけのませてくれた）山名の標識をバックに記念撮影を済ませ下山の途につく。

出発矢先、中山氏に脚の不具合が発生したがなんとか歩けるそうで、杉山、濱田、大賀と私が中山氏に同行し、他の5人は先行してもらうことになった。先行組は緩やかな樹林帯を快適に下つた。だが、後発組はそろりそろりの忍び歩き。中山氏の脚を濱田がマッサージするのだが、もみ方というのか、手の動きが素人目には上手そうに見え、その横で大賀は薬を塗つたりして助手のように見えた。杉山はザックを引き受け、私は口先だけという役割であつた。

月待ちの湯ならぬ中山待ちの湯になつてしまつたが、温泉につかれば疲れも芭蕉もすっかり忘れ、終バスも気にすることなく乾杯乾杯で盛り上がつた山歩きの夕暮れになりました。

## 二十六夜山の由来とワンデルング

五月のなため会Wは“二十六夜山”。そして懇親会場は“芭蕉月待ちの湯”でした。こ

BN 795 濱田 稔

の名前ちよつと変わっています。そして風情のある名前です。我が祖国を遍歴するワンドラーを自認する小生?の好奇心をちよつとくすぐり、由来を調べてみました。

江戸時代の人々は、お花見とお月見が最大の楽しみのようでした。中秋の名月||陰暦8月15日を中心に8/14~15が待宵(まつよい)16~17日が恋路十六夜(こいじいざよい)と呼ばれ、その月を愛する習慣があつたようです。地方によっては月待ちという風習がありました。十七夜||立待月(立つて待つているうちに出てくる)、十九夜||寝待月(もう遅いので寝ながら待つ)、二十夜||更待月(夜も更けて出てくる)、更に二十六夜月待ちまで行う地域がありました。

二十六夜月待ちは、旧暦の正月と七月の二十六夜に人々は餅や米、野菜などをお供えして、月光に現れる阿弥陀仏、観世音菩薩、勢至觀音の姿を拝み、諸悪を払い、災いから人を守り、養蚕の守護などを祈願したそうです。月の出は午前一時~二時です。それを口実に月を待つ間、人々は酒を飲み交わしたのでしょうか。二十六夜山とは、その月待ちの日に麓の村人たちが、道志山塊から上がる月を拝むために登つたのが由来だそうです。昔から地元の人々に親しみ愛され、登られた山ではないでしょうか。

「芭蕉月待ちの湯」も変わった名前です。江戸の大戸で家を追われた松尾芭蕉が、弟子を頼り谷村(現在の都留市)を訪ねた際に立

ち寄った正蓮寺で詠んだ歌「名月の夜やさぞかしの宝池山」今夜は名月の夜ではないが、この宝池山の月はなかなか素晴らしい。これが名月の晚だつたらさぞかし見事な眺めになるだろう)に由来するそうです。宝池山とは、正蓮寺の山号で由来記によると「一町余リノ池アリ」と記されています。

このような詩情あふれる地域でなため会Wが実施されました。ブナやナラの天然林の新緑の山は清々しく、心地良いものでした。登り始めて間もなく、木々の間から雪をかぶつた富士が頭を見せてくれました。南アルプス

も見えましたが、昼には霞んで見えなくなつてしましました。エイザンスミレは時期的に遅く見られませんでしたが、ムラサキヤシオツツジは咲き誇り我々一〇名を迎えてくれました。なため会W常連の椎橋OBは、今日はいくつのピークを踏んだか数えていらつしやる。三〇〇名山を達成した者のこだわりか!

極上のワイン目当ての愛甲OBとそのリクエストに応える企画振興部長の大賀OB、古参OBの吉田先輩、中山先輩等五〇代から七〇代までの中高齢者の登山団体です。コースリーダーは杉山OBでゆつくり、のんびりのWでした。

## 2. 那須連峰+那須温泉(1泊2日)

- 1. 阵馬山(日帰り)
  - ・日時..8月25日(土)
  - ・実働..3時間
  - ・行き..高尾駅
  - ・帰り..藤野駅
  - ・温泉..陣馬の湯
- 2. 那須連峰+那須温泉(1泊2日)
  - ・..なため会懇親旅行も兼ねて
  - ・日時..10月20日(土)~21日(日)
  - ・Aコース..ロープウェイ山頂駅~茶臼岳~朝日岳~三本槍岳~中の大倉尾根~北温泉の縦走コース(行きロープウェイ利用)
  - ・実働..5時間
  - ・Bコース..ロープウェイ山麓駅~峰の茶屋跡避難小屋~茶臼岳~山頂駅(帰りロープウェイ利用)
  - ・宿泊場所..那須温泉自在荘

\* 紅葉のピークに百名山の茶臼岳に登り温泉で疲れを癒す、恒例の秋1泊のワンドルング企画です、多数のご参加をお待ちしております。

懇親会場の「芭蕉月待ちの湯」では、食べて飲んで「二十六夜月待」の気分を味わいました。我等ワンドラーバナナのわびさびを解せ

詳細は別途ご案内いたします。

## ■8月、10月のワンドルングご案内

企画振興部

## 平成23年度 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 卒業生 歓送迎会

■日時 平成24年3月3日(土) 17時00分~19時30分 ■場所 明治大学 ホテル グランパレス 九段下

■式次第(敬称略)

17:00	開会	司会進行	日暮 浩美 (915)
	部長先生挨拶	部長	長峰 章 (1000)
	なため会会長挨拶	会長	天野 俊明 (477)
	監督挨拶	監督	諏訪本充弘 (751)
	送辞	主将	安田 光輝
	答辞	前主将	杏澤 優子
	バックル授与	会長	天野 俊明 (477)
17:40	乾杯	幹事長	小田野義之 (775)
	祝宴		
	写真撮影		
	校歌齊唱	主将	安田 光輝
19:30	閉会		

■出席者: 98名

●卒業生: 6名

1258 杏澤 優子 1259 大塚 覚 1260 花形 和哉 1261 須郷 仁貴 1262 渡邊 隆 1263 越川 真人

●なため会会員: 52名

181 新村 貞男	299 大内 善一	339 足立 康弘	393 植木 正子	419 北村 恵子	451 山田 祥二
455 飯村 朋園	468 鹿嶋信太郎	477 天野 俊明	487 鈴木 康弘	489 野村 司	494 木島 敏夫
501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	525 志村 和久	527 池田 陽一	532 鈴木 正彦	558 奥倉 勇一
566 松本 栄作	610 石田 正	614 石井 克太	625 管野 隆夫	627 和田 満	683 横手 一男
705 杉山 裕	717 住田 孔一	728 横尾 廣志	739 卵之原文康	751 諏訪本充弘	764 高橋 寿子
775 小田野義之	788 原田 博文	795 濱田 稔	817 和賀井英雄	879 井上 稔也	886 佐藤伊津英
915 日暮 浩美	954 西 一彦	974 松井 法一	1000 長峰 章	1005 原 宏	1064 井上 堅一
1065 斎藤 宏	1234 吉澤 悠介	1242 片貝 友哉	1243 山崎 浩樹	1247 澄川 達也	1250 鹿村 亮介
1252 望月 啓夫	1255 鈴木 大地	1257 井上なぎさ	2120 鈴木 元典		

●現役: 40名

主将 安田 光輝	主務 岩田 卓也	4年 久野 隆裕	4年 境 健成	4年 藤原悠一郎	4年 餅原 美里
4年 森田 莉帆	4年 山脇 英明	3年 大村 英樹	3年 金子 大修	3年 木村 和頼	3年 坂巻 裕太
3年 佐藤 岳	3年 西村 怜	3年 浜口小百合	3年 原 恭亮	3年 南 隼人	3年 安井 美穂
3年 渡邊 弘樹	2年 石田 一樹	2年 内山 嘉穂	2年 上出 稔	2年 鴨志田岳大	2年 勝田 三月
2年 近藤 慶花	2年 栄 竜彦	2年 佐藤 隼人	2年 鈴木 竜一	2年 鈴木 優花	2年 諏訪部貴亮
2年 高見 健太	2年 田口 和昌	2年 長島 脩平	2年 中沢 公太	2年 橋本 和紀	2年 馬場 大志
2年 馬場 孝彰	2年 真野 祐輔	2年 山崎 友也	2年 渡辺 千佳		



## 明治大学体育会

## ワンドーアーフォーゲル部なため会

## 平成二十三年度 幹事会報告

五月十五日(火)十八時〇〇分

～二〇時〇〇分

於アカデミーコモン

## 一、審議事項

(一) 平成二十三年度事業報告 小田野幹事長報告

・原案通り承認されました。

(二) 平成二十三年度決算報告 大倉財務部長報告

・原案通り承認されました。

(三) 平成二十三年度監査報告 前田監事報告

・原案通り承認されました。

(四) 平成二十四年度組織案 小田野幹事長説明

・原案通り承認されました。

(五) 平成二十四年度事業計画案 小田野幹事長説明

・原案通り承認されました。

(六) 平成二十四年度予算案 小田野幹事長説明

・原案通り承認されました。

(七) 規約改正案 小田野幹事長説明

・原案通り承認されました。

## 二、報告事項

・各委員会報告  
・現役の活動状況報告

諫訪本監督報告

なため会 組織 (平成24年4月～平成25年3月)					
■役員	会長	天野 俊明(477)			
	副会長	足立 康弘(339)	内田 吉成(392)	紀伊辰之助(423)	
		鹿嶋信太郎(468)	鈴木 正彦(532)		
	幹事長	小田野義之(775)	副幹事長	濱田 稔(795)	
	監事	前田 芳弘(501)	大賀 徹雄(661)		
	駿台体育会理事	志村 和久(525)	奥倉 勇一(558)		
■部・専門委員会	財務部	(部長)柳川 俊泰(792)	(副)金井 良博(842)		
	総務部	(部長)松本 栄作(566)	(副)小田野義之(775)	(副)原田 博文(788)	
		(副)日暮 浩美(915)	(副)松井 法一(974)		
	広報推進部	(部長)井上 稔也(879)	(副)加藤 章一(845)		
	企画振興部	(部長)大賀 徹雄(661)	(副)横尾 廣志(728)	(副)井上 堅一(1064)	
	山小屋管理部	(部長)杉山 裕(705)	(副)植木 進(846)	(副)唐川 拓三(850)	
	情報管理部	(部長)住田 孔一(717)	(副)和賀井英雄(817)		
	事業運営部※	(部長)猪狩 稔(835)	(副)安部 好洋(1006)		
※今まで副幹事長が行ってきた業務の内、事業計画の作成・執行、予算編成、会議日程・進行、議事録作成などの業務を行う部として独立					
■プロック世話人	◎は正、○は副				
第1・第2 (S14-37卒)	◎飯村 朋匱(455)	○中山 光史(395)	○内田 吉成(392)	○篠崎 徳量(241)	
	○吉田 修(345)	○紀伊辰之助(423)	○鹿嶋信太郎(468)		
第3 (S38-43卒)	◎池田 陽一(527)	○前田 芳弘(501)	○松本 栄作(566)	○秋元 道別(594)	
	○大洞 聰(597)	○和田 満(627)			
第4 (S44-51卒)	◎杉山 裕(705)	○横尾 廣志(728)	○野島 一雄(676)	○住田 孔一(717)	
	○柳川 俊泰(792)				
第5 (S52-58卒)	◎飯塚 彰(863)	○唐川 拓三(850)	○加藤 章一(845)	○遠山 高広(858)	
	○井上 稔也(879)				
第6 (S59-H5卒)	◎松井 法一(974)	○池本 直人(956)	○成田 幸治(976)	○井上 堅一(1064)	
	○大村 研(1086)				
第7 (H6-23卒)	◎中村 央(1156)	○中村 宏之(1196)	○藤代 達也(1202)		
■相談役	新村 貞男(181)	田中與一郎(186)	小林 碧(197)	高野 栄三(209)	
	和田 有弘(237)	篠崎 徳量(241)	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	
	吉田 修(345)	柴田 常夫(381)			
■参与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)		
■顧問	杉浦 忠夫(600)	坂本 清(700)	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)	
■部長	長峰 章(1000)				
■監督	諫訪本充弘(751)				
■コーチ	和賀井英雄(817)	井上 堅一(1064)	尾崎 剛史(1174)	生井 智之(1212)	

平成23年度 なため会決算報告  
(自23.4.1 至24.3.31) 財務部

## 1. 会計報告

## ●一般会計

収入の部	予算額	決算額
前年度繰越金	5,338,272	5,338,272
なため会費	1,500,000	1,648,000
利息収入	0	1,066
薰風広告収入	100,000	45,000
合 計	6,938,272	7,032,338

## 支出の部

慶弔費	100,000	30,420
「薰風」制作費	250,000	199,900
「薰風」発送費	160,000	184,362
会議費	80,000	25,935
駿台体育会費用	110,000	99,620
情報通信整備費	110,000	104,367
山小屋委員会	80,000	82,180
総務経費	100,000	49,992
財務経費	10,000	1,300
企画委員会	30,000	1,010
卒業生歓迎会後祝金	30,000	52,655
現役忘年会補助	40,000	30,000
現役なため会W参加補助費	70,000	0
ユーチュア活動助成金	150,000	150,000
会費集金手数料	50,000	47,510
【その他費用計】	508,000	110,338
明大スポーツ購入	(20,000)	(5,000)
現役テント購入補助	(90,000)	(98,438)
名刺作成	(5,000)	(6,900)
その他	(393,000)	(0)
小 計	1,878,000	1,169,589
会計収支	5,060,272	5,862,749
次年度繰越金	0	5,862,749
OB基金	4,631,000	4,631,000
総 資 産	9,691,272	10,493,749

## ●なため会総資産

通帳残高 (24/03/31)	5,862,749
OB基金 (定期3口)	4,631,000
合 計	10,493,749

上記の通り報告致します。 財務部 大倉正敏 (822)  
金井良博 (842)

## 2. 監査報告

平成23年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監事 前田芳弘 (501) 大賀徹雄 (661)

平成23年度 なため会義援金会計決算報告  
(自23.4.1 至24.3.31) 財務部

## 1. 会計報告

## ●一般会計

収入の部	決算額
寄付金	1,308,000
総会会費残金	28,610
合 計	1,336,610

## 支出の部

見舞金	1,040,000
送金手数料	5,600
連絡事務費	38,850
小 計	1,084,450
会計収支	252,160
次年度繰越金	252,160
義援金会計残高	252,160

上記の通り報告致します。 財務部 大倉正敏 (822)  
金井良博 (842)

## 2. 監査報告

平成23年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監事 前田芳弘 (501) 大賀徹雄 (661)

## 平成23年度事業報告

## 1 重点目標

- 会員サービスの向上
- 現役交流の推進
- 財政健全化の推進（会費納入の強化）

## 2 活動報告

- H23・4・12(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H23・4・26(火) 駿台体育会理事会（アガミコモン）2名
- H23・4・27(水) 平成22年度会計監査（アミ）5名
- H23・5・10(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H23・5・17(火) 幹事会・総会（サロン紫紺）50名
- H23・6・3(金)～5(日) 奥鬼怒山荘ワークワーンデレンジ 20名
- H23・6・14(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H23・6・15(水) 駿台体育会総会親睦会  
(リバティータワー23F) 5名
- H23・7・12(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H23・7・30(土) 薫風43号・会費督促他発送  
(体育記念室) 10名
- H23・8・20(土) 第39会なため会W  
(黒岳(河口湖)) 8名
- H23・9・13(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H23・10・11(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H23・10・11(火) 駿台体育会理事会（アガミコモン）2名
- H23・10・22(土)～23(日) なため会親睦旅行会・第40回  
なため会W(谷川岳&水上温泉) 34名
- H23・11・7(月) 駿台体育会親善ゴルフ  
(鷹之台カンツリー倶楽部) 4名
- H23・11・8(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H23・12・7(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会  
(リバティータワー23F) 4名
- H23・12・13(火) 幹事会・忘年会  
(ホテルグランドパレス九段下) 50名
- H24・1・10(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H24・1・28(土)～29(日) 駿台体育会と体育会監督会との  
合同研修会（箱根湯本ホテルおかだ）3名
- H24・2・4(土) 薫風44号・会費督促他発送  
(体育記念室) 15名
- H24・2・14(火) 運営委員会（体育記念室）15名
- H24・2・18(土) 第41回なため会W（金時山(箱根)）11名
- H24・3・3(土) 卒業生歓送迎会  
(ホテルグランドパレス九段下) 98名
- H24・3・13(火) 運営委員会（体育記念室）15名



# 暑中御見舞申し上げます。

昭和39年度卒業 山久会



東郷 隆男 坂上 雅彦 池田 陽一 増田 陽三 三嶋 保郎 小島 政男  
 深川 克人 天野 義美 井出 健一 磯崎 守弘 大橋 洋祐 奥倉 勇一 守重 芳樹  
 志村 和久 岸 恵智子 三宮 道雄 佐藤 寛  
 榎本 昌弘 鈴木 正彦 佐藤 昭 飯塚 典夫

「編集後記」

BN 879 井上 稔也

先の震災以来この方、足元でナマズが一斉に目を覚ましたかのように日本列島至る所で地面が鳴動し、富士山とて噴火の兆候がささやかれるなか、もはや震度4程度では話題にもならない揺れマヒ状態。一方、天空では昨夏に紀伊半島で猛威を振るつた台風をはじめ、その後の豪雨、豪雪、竜巻にも「記録的な『観測史上最大』といった枕詞のオンパレード。そして今夏は九州が「これまでに経験したことのない」大雨。言葉のインパクトはともかく、我々は災害列島に暮らす民族であることを改めて思い知らされる昨今です。この国土に生きる者として、原発と共に存していく覚悟は、できればしたくないのが本音。何やら今夏も猛暑の予感…ご自愛を。

発行者	明治大学体育会	編集	平成二十四年七月
印刷所	明治大学体育会	鈴木 康弘	一色 雅男
三協印刷株式会社	ワンドーフォーゲル部なため会	池上 勝彦	石井 克太
		猪狩 稔	加藤 章一
		西澤 賢一郎	井上 稔也
		日暮 浩美	